



# 始まりの残丘

## ー背景ー

美術館の概念はアートの変化と共に変わり続けている。芸術に礼拝的価値を見出していた古典パトロネージの時代から複写や模造などの技術が発達した事によって宗教的な儀式から解放され、展示価値が増していった時代。そして、現在はエンタメから学習に至るまでの多種多様な経験をパトロンが追求する口実価値の時代へと変化した。勿論、美術館・アートの概念が変わる事で作品の展示方法や運営形態も変わってくる。その変化に伴い様々な問題が発生し、美術館に足を運ぶ意味が見失われつつある今、今後の美術館の在り方を考える。

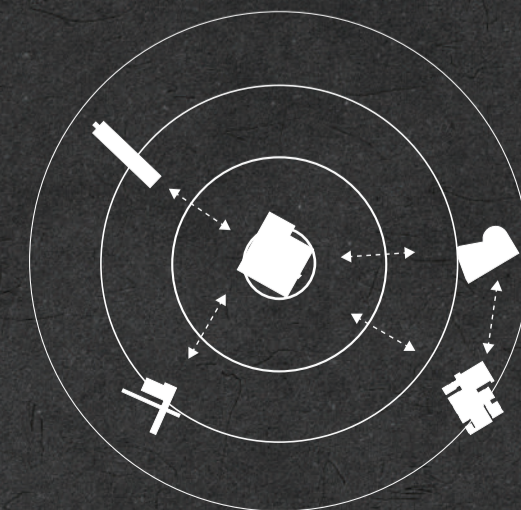
## ー美術館の問題ー

- 1. 肥大化する美術館**  
パトロンが求める口実価値という概念は美術館側に様々なサービスや機能を求める。これに応えるために美術館は肥大化し、運営コストが高んでいく。
- 2. 収益性重視の運営形態**  
美術館の肥大化に伴い嵩んでしまった運営コストを回収するために収益性重視の運営形態となり、大量動員を目的としたブロックバスター展などを優先して行うようになる。
- 3. アーティストの美術館離れ**  
ブロックバスター展などの展覧会が優先される事によって話題性の低いアーティストの企画展などが開催されにくくなる。また、公的機関である美術館では規制が多く、アーティストの表現の幅が狭まっている。そのことからアートイベントや個展など自由な表現が行える美術館外での活動をメインで行うアーティストが増えている。
- 4. オンライン展覧会**  
パンデミック以降頻繁に行われるようになったオンラインでの美術展は会場で実物を見る以上に細密にディテールを見ることができる。こうしたネット配信によってこれまで美術館に足を運ばなかった人や社会的に弱い立場の人たちがアートの面白さに目覚めることも十分にあり得る為、今後ますます増えていくと考える。その場合、実際に美術館に足を運ぶ必要があるのか。

## ー選定敷地・アクセスー

- 1. 選定敷地**  
敷地は京都府京都市北区北舟岡町にある残丘、船岡山にある船岡山公園に計画する。船岡山には織田信長を祀る建勲神社、敷地周辺には千利休の墓がある大徳寺や「玉の輿神社」とも呼ばれている今宮神社、大正 12 年開業の船岡山温泉がある。
- 2. アクセス**  
市バス：最寄りのバス停から徒歩 1 分  
市営地下鉄：鞍馬口駅から徒歩 30 分

## Diagram ①



「孔」の美術館を中心に半径 75M 以内の場所に美術館を互いが見えるように配置することで次の美術館を目視で探しながら山の自然にも目を向けることが出来る

## ー運営ー

- 1. 運営方法**  
計画する美術館は展示場所を無償で提供する。アーティストが自分で作品を自由に持ち込み、好きな場所に一定期間展示できる。また、多くの歴史を持つ船岡山をより知ってもらうための企画展を一部の展示スペースを利用して行う。収蔵部分については展示場所の貸し出しがメインなため収蔵量は持ち込まれた作品を一時的に保管する場所として使用する。



- 2. 資金源**  
京都市は船岡山公園の維持費に年間 1 億円近く費やしている。その費用を美術館の運営費として使用する。その他にはクラウドファンディングや来館者にお布施のような形でお金を頂戴し、資金を確保する。



- 3. 展示以外のアクティビティ**  
現在、船岡山公園では福祉施設と大学が行う「福祉まつり」や公園側主催の「オープンパーク」など様々なイベントが行われている。こうしたイベントを計画する美術館内の敷地でできるようにリースペースを確保した。



## ーコンセプトー

アートイベントやオンラインコンテンツが充実した現在、それでも美術館に足を運ぶ意味は何か。その問いの前に現在の収益性優先の現在のシステムからの脱却を行い、パトロンやマスコミ各社の干渉がない新たな運営形態を構築することが必要。次に、量より質を重視することで機能の縮小・単純化を図り柔軟に変化し続けることのできる展示空間を計画する。そして、哲学者ベンヤミンが定義した「アウラ」の持つ<いま-ここ>的性質を保証し<いま-ここ>でしか味わうことのできない経験を美術館が提供する。そんな美術館を平安京造営の際に基準となった山に計画し、新たな美術館の在り方を提案する。

## ー設計趣旨ー

フランシスコ・トレドの小さな美術館はオアハカ・セントロの主要なアトリエや工房、広場や公共施設を小さな美術館と称して街の至る所で展示会やアートイベントを行うことで街をアート一色にしていた。アーティスト、来館者の善意、京都市が共同で運営する5つの小さな美術館を船岡山に計画し、<いま-そこで>しか味わう事が出来ない経験を提供する場所をつくる。船岡山は市街地にありながらも「京都自然100選」の第一号に認定された自然豊かな山であるため、現在船岡山公園の広場となっている場所や木が生えていない場所に散りばめるように小さな美術館を配置する。また、

## Diagram ②

	1	2	3	4	5	6	7	8	9
E [環境] environment	森	街	窪み	平	傾	頂	高	-	-
S [形状] shape	正方形	三角形	円柱	道	穴	長方形	井	平面	多角形

上の diagram を使って展示空間の形状と周辺環境の組み合わせから 11 つの異なる展示空間を計画した。これによりホワイトキューブのような集約的な時間ではなく個別の時間が流れるようにした。

# 行路

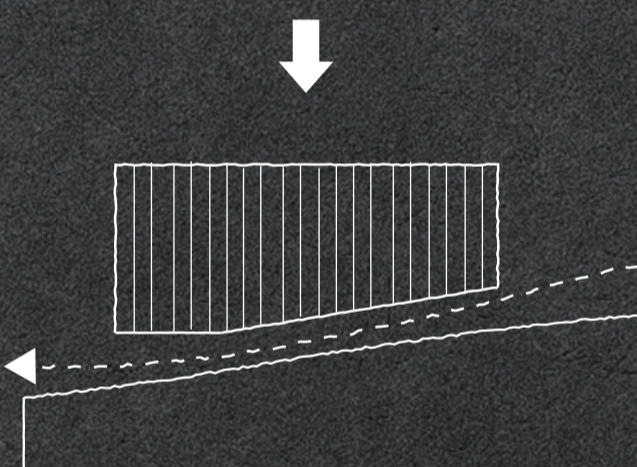
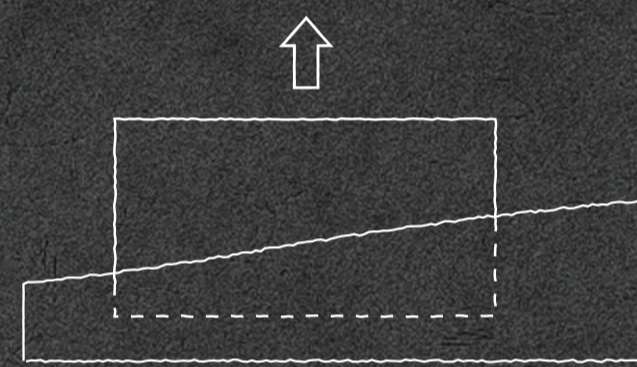
## CONCEPT

住宅街と船岡山の間にある傾斜地に計画する。構造はRC造・木造であり、外壁の大部分をトタンで覆う。側面の下側と天窗は光が入り込むようにすることで入る光が木組みの隙間から零れるように建物内部に降り注ぐ。そして、E2S9①は従来の美術館のエントランスのような場所であり、ここから始まる芸術鑑賞という旅に思いを馳せることが出来るような空間になるようにした。

## E2S9

木組みの中を通り抜ける道のようなこの展示スペースは、コンクリートの土台に沿うように斜めのスリットが入っており、人が多くなる正午過ぎから内部に光が入るようになっている。また、二重梁を採用することで照明の設置や間仕切り壁の設置などをスムーズにすることが出来る。

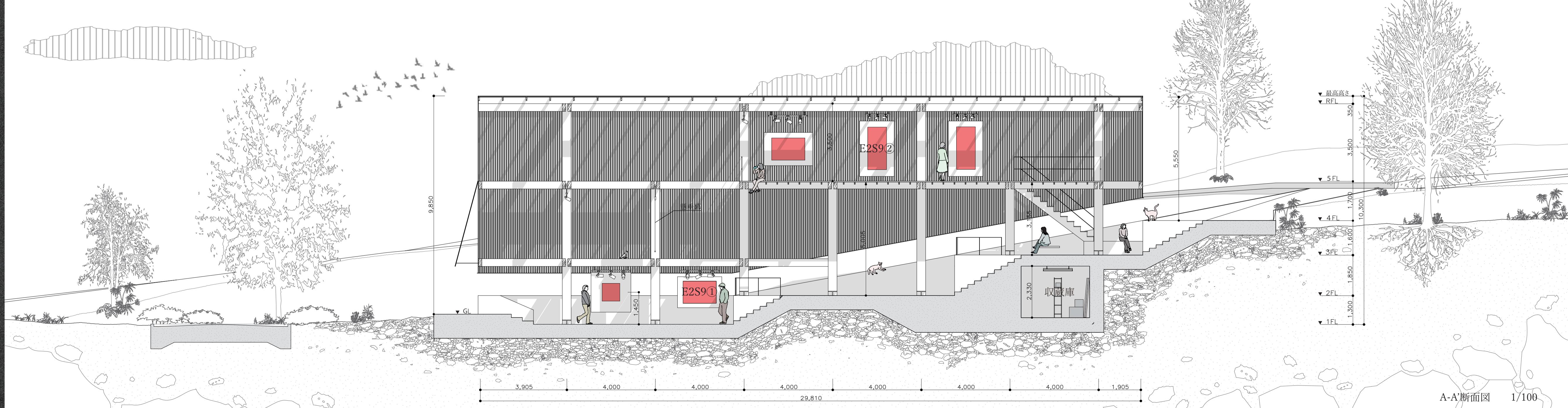
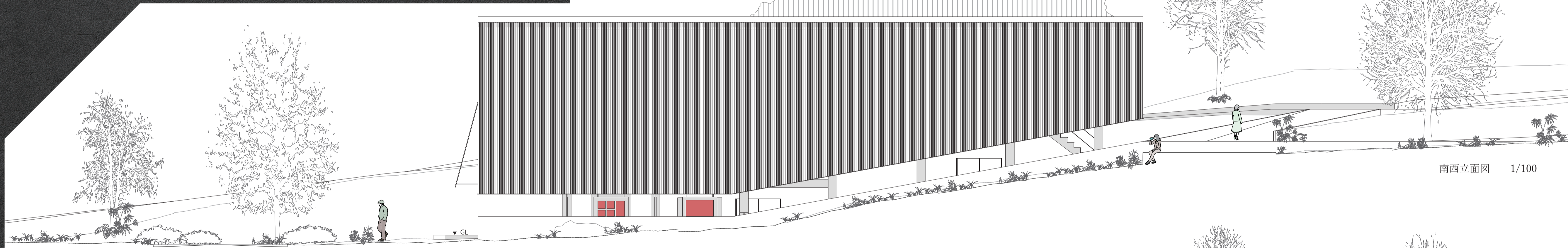
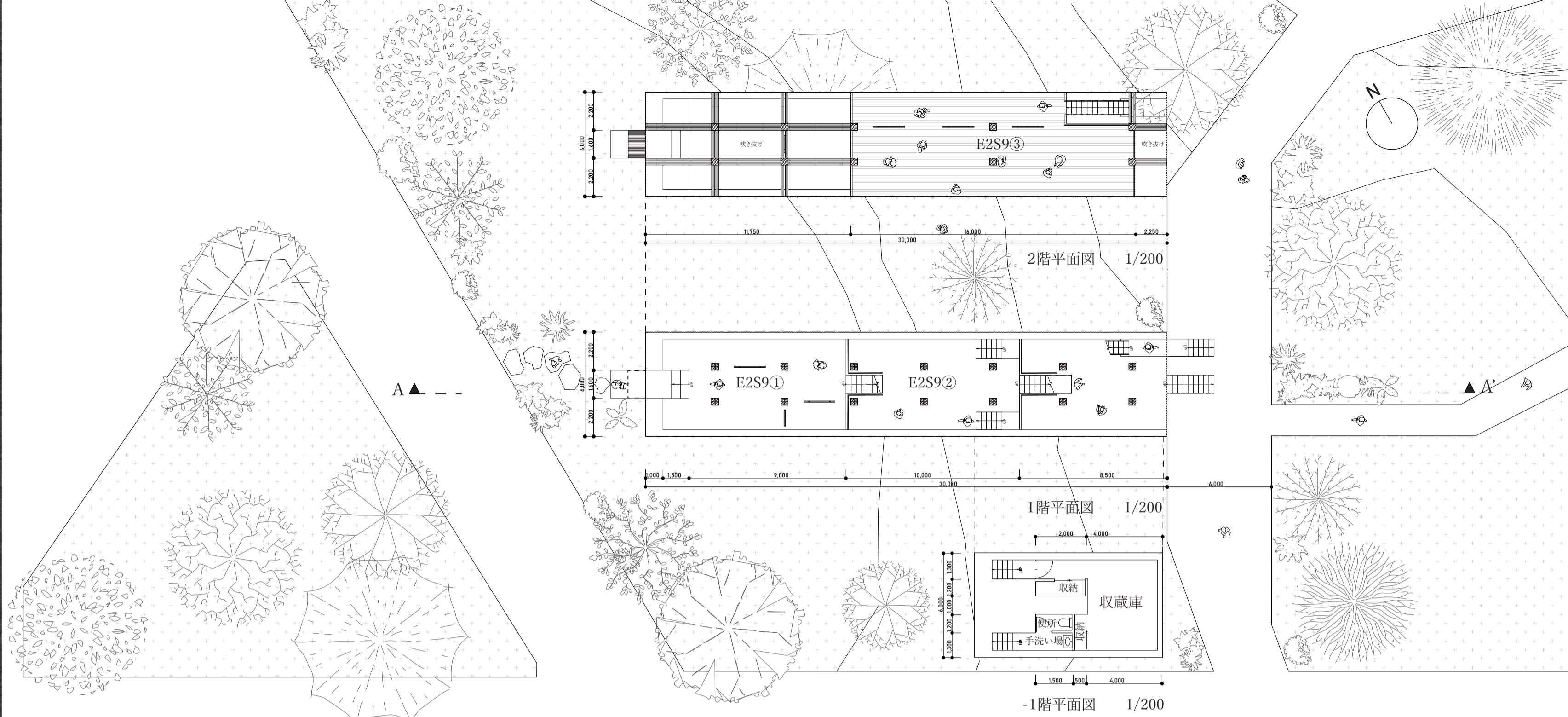
## DIAGRAM



	1	2	3	4	5	6	7	8	9
E [環境] environment	森	街	庭み	平	樹	田	高	-	-
S [形状] shape	正方形	三角形	円柱	直	箱	井	平	多角形	



配置図 1/3000



# 孔

## CONCEPT

この美術館は広場として利用されていた場所の中央に設けた。  
この展示スペースには「暗い孔」、「光の孔」、「可視化された孔」の計三つの異なる孔と「可視化された孔」の下にある展示スペースから構成されている。

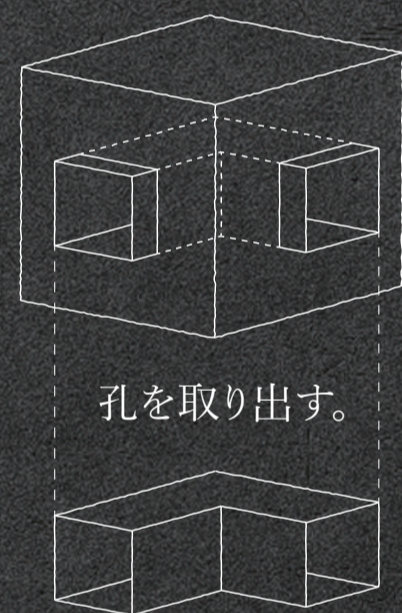
**E3S4 「可視化された孔」**  
基本閉鎖的な空間だが所々開けた場所があり、そこに作品を展示することが出来る。

**E4S4 「暗い孔」**  
主に視聴覚芸術を展示するのに向いている。

**E4S7**  
可視化された孔の隙間から光が差し込む展示スペースとなっている。

**E5S5 「光の孔」**  
所定の時刻になると開口部から展示空間へと光が入る。

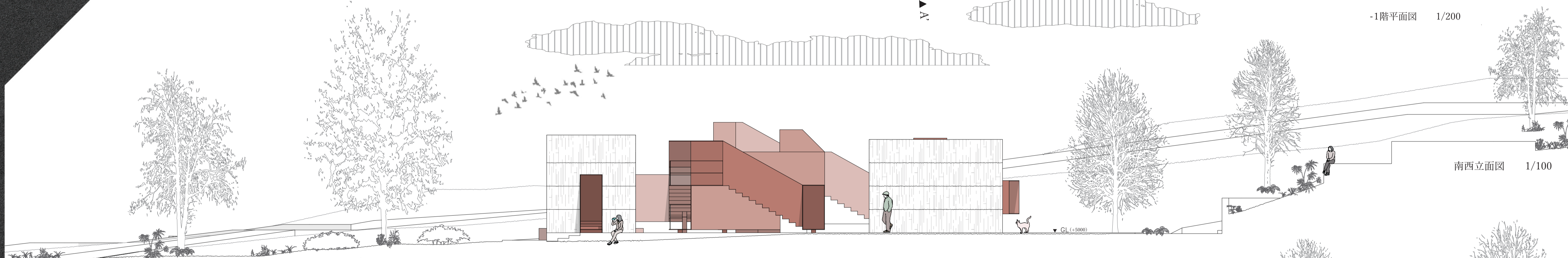
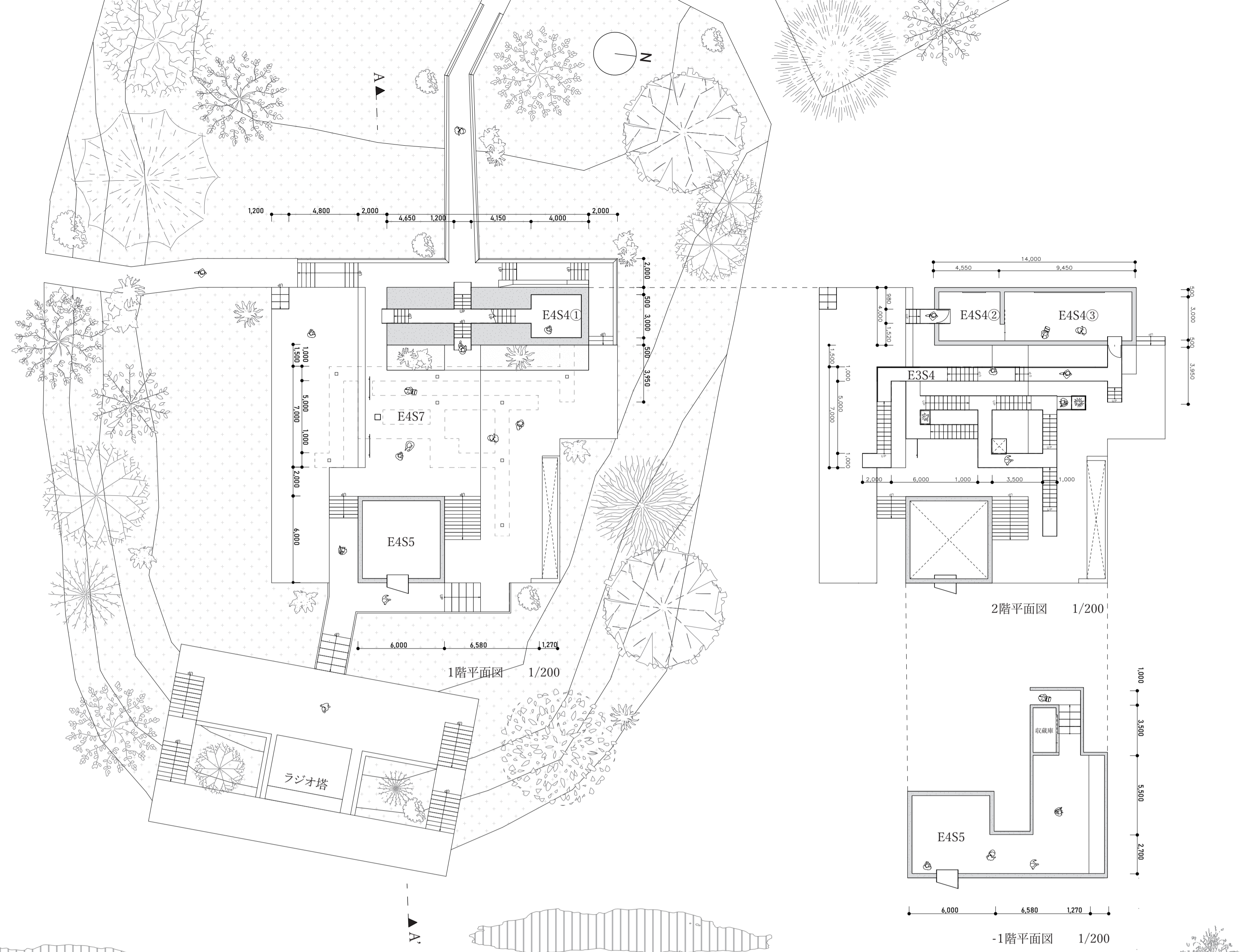
## DIAGRAM



1	2	3	4	5	6	7	8	9
1 [階層] (level)	柱 (column)	壁 (wall)	梁 (beam)	平 (flat)	傾 (slope)	高 (high)	低 (low)	変 (change)
S1 形状 1 (shape 1)	正方形 (square)	三角形 (triangle)	円形 (circle)	直線 (line)	六角形 (hexagon)	長方形 (rectangle)	垂直線 (vertical line)	水平線 (horizontal line)



配置図 1/3000



# 差異

## CONCEPT

「生き物は円柱形」とあるように自然界の多くの動植物を構成している形状である円柱形と、人工物の多くを構成している立方体。異なる2つの形状を廊下と廻り階段で繋げ、様々な違いを感じながら鑑賞することが出来る展示空間を計画した。

### E6S8

4.5畳の広さがあるE6S8は、聚光院にある千利休の墓をこの場所から望むことが出来ることから茶室をイメージした2865×2865mmの展示空間を設計した。

### E5S3

円柱形の中にあるこの展示空間は空間的には2層に分かれているように思えるが天窓から日の光りが壁を伝って入ることによって2つの空間が一つになる。

## DIAGRAM

形状の違う2つのボリュームを散らす



整形



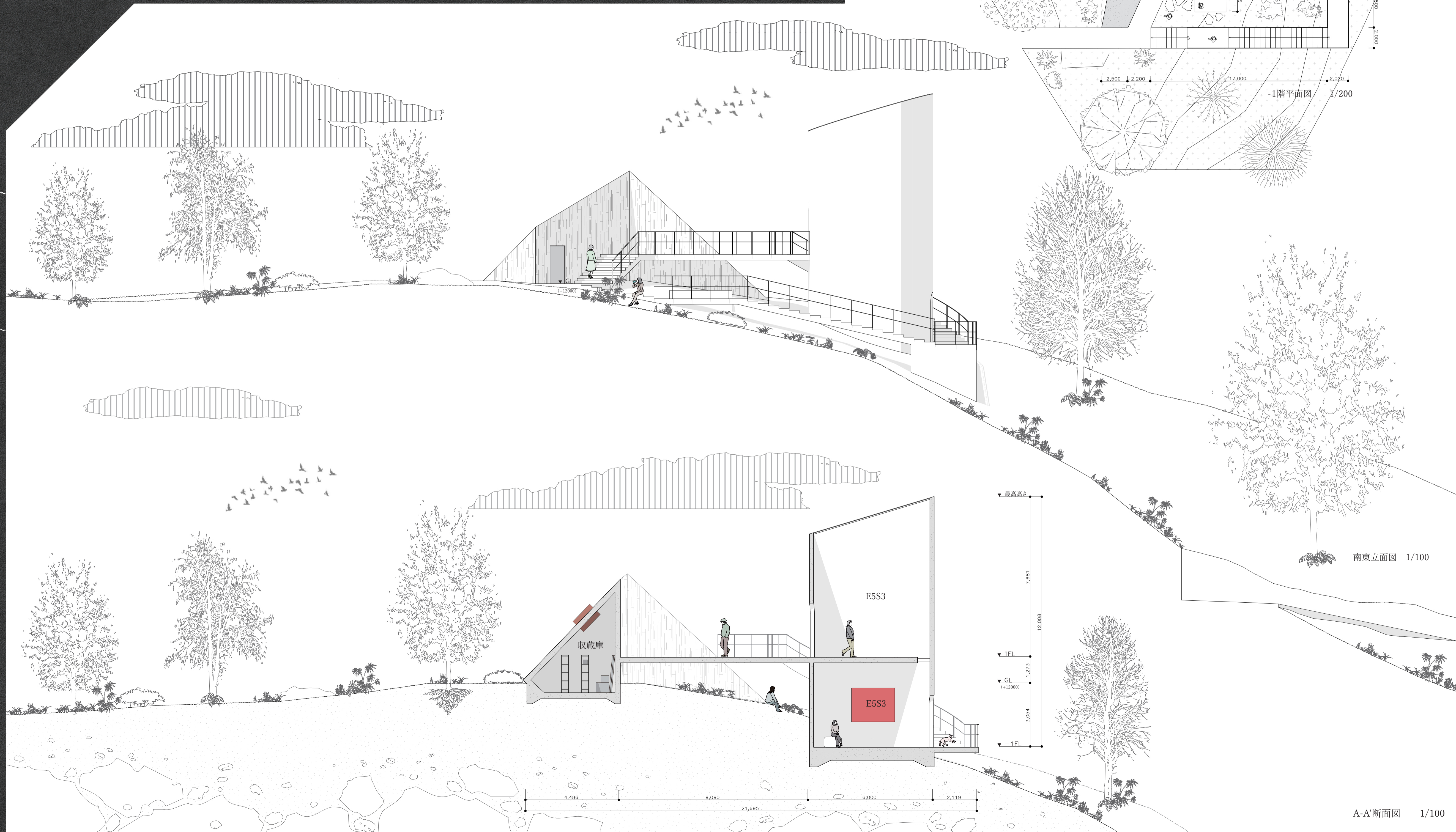
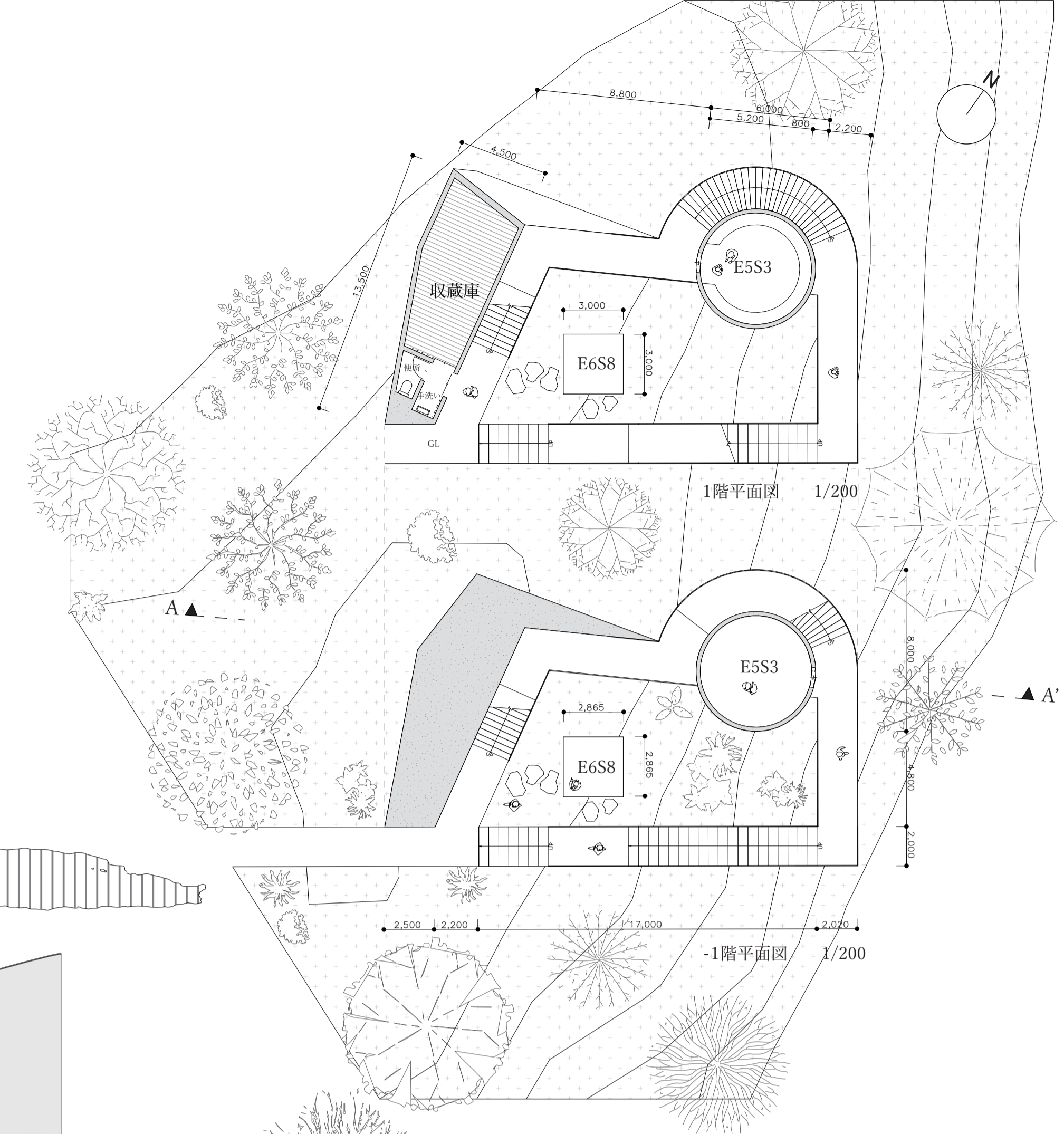
	1	2	3	4	5	6	7	8	9
E   環境   environment	森	樹	窪み	平	傾	田	高	-	-
S   形状   shape	正方形	三角形	円形	直線	六角形	井	半円	多角形	



遠くから眺める



中の様子。



南東立面図 1/100

A-A'断面図 1/100



配置図 1/3000

# 閑静

## CONCEPT

この場所は船岡山の中でも森が深く、街の喧騒が届かない静かな場所。その代わり、鳥のさえずりや風に吹かれ枝葉が揺れる音などの環境音がよく聞こえる。また、周辺に背の高い木々が多いことから夏場も過ごしやすい環境である。閑静なこの場所に冷たく静かな印象を受けるスチール製の細い金属のフレームで構成された展示空間をつくり、周りの環境を感じながら落ち着いて芸術鑑賞を行える場所を計画した。

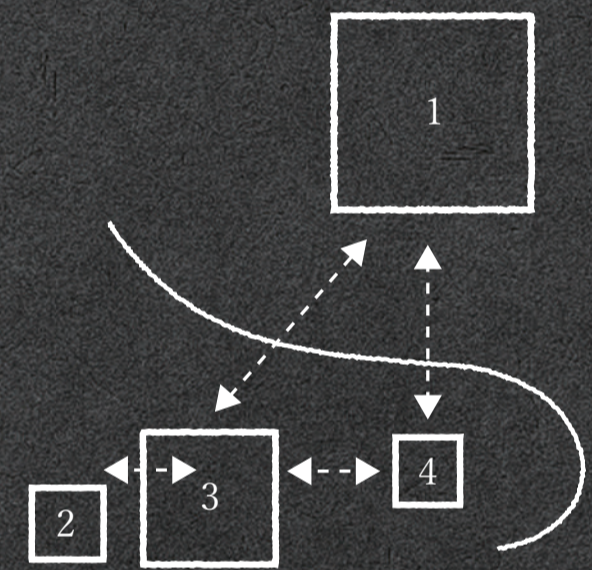
## E1S7

主にインスタレーションや彫刻などの作品を展示する場所。無数の柱の隙間から入る光は「行路」の木漏れ日とはまた違った良さがある。

## E1S4

通路兼展示スペースであり、歩きながら芸術鑑賞を行うことができる。

## DIAGRAM



全展示スペースからの視線の抜けとその間を通る人の軌跡。

5 [階層] environment	夜	樹	梁み	平	橋	道	高	...	...
S [形状] shape	正方形	三角形	円形	直線	六角	長方形	半円	半島	多角形



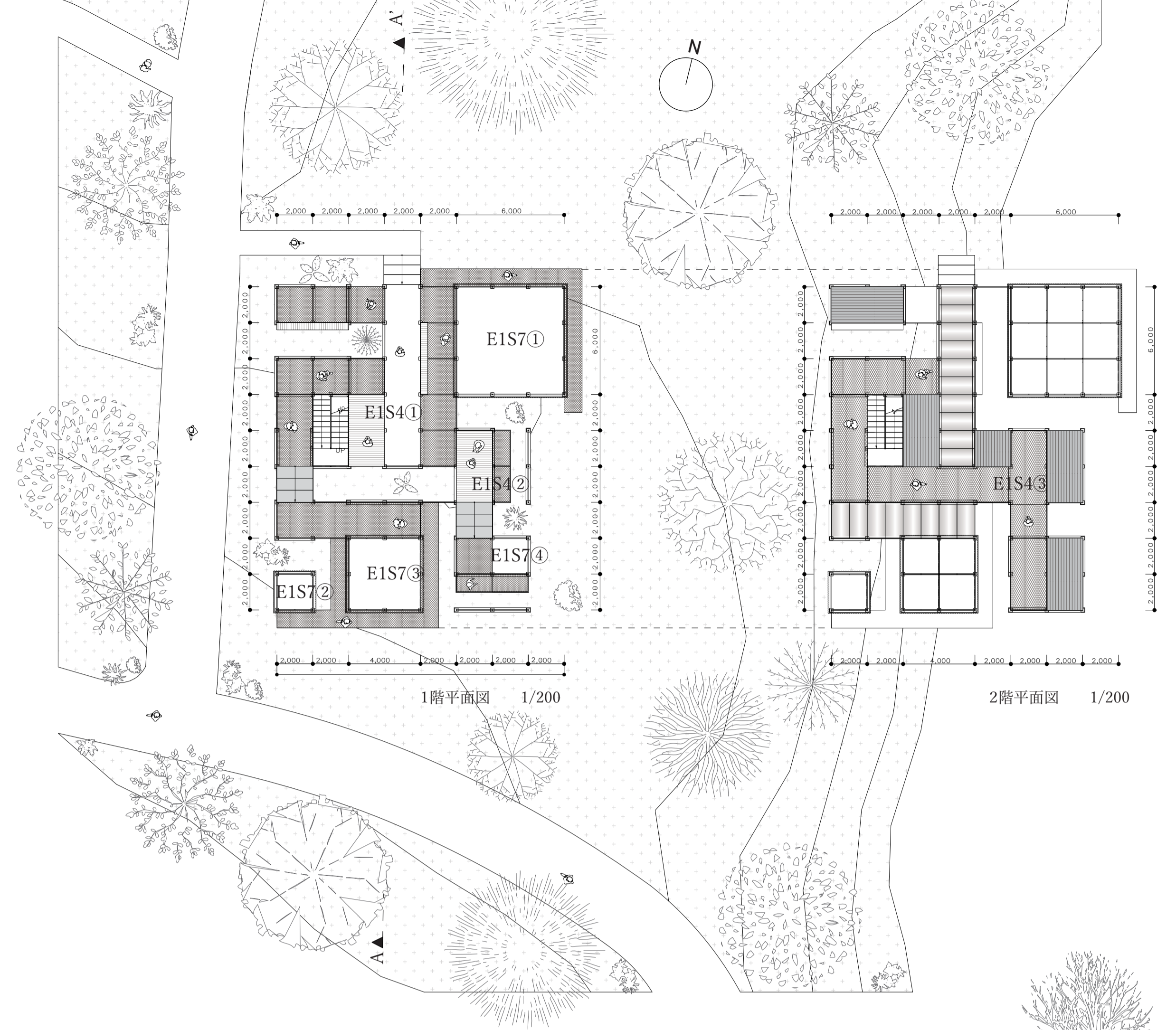
配置図 1/3000



「道通」を鳥の視点から見る。

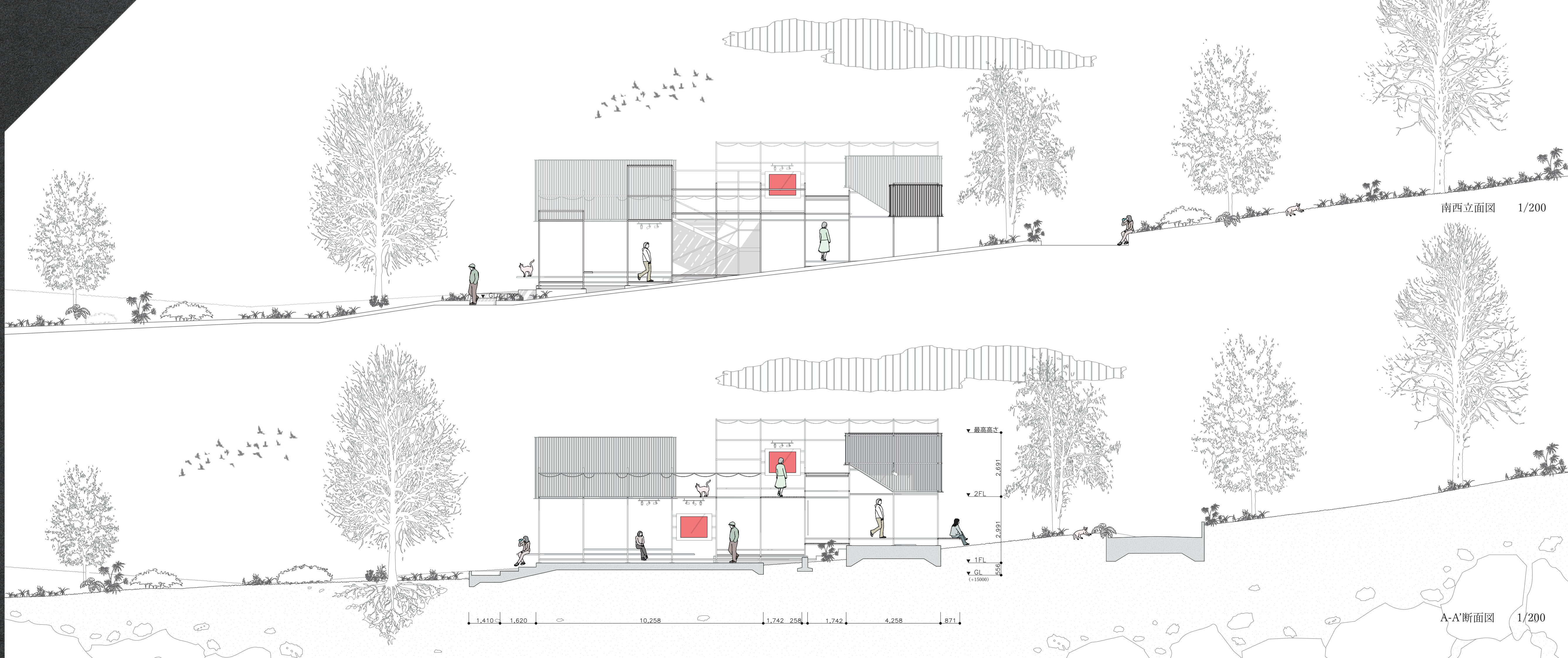


E1S4①の様子。



1階平面図 1/200

2階平面図 1/200



南西立面図 1/200

A-A'断面図 1/200

# 望楼

## CONCEPT

山の頂上の端に計画したこの建物は、展望台を兼ねた美術館である。この場所は毎年行われる五山の送り火の際、すべての送り火が船岡山の頂上から見られることを理由に頂上周辺の木が切り倒されている。環境保全も今回のテーマの一つであるため、木を切り倒さなくて済むように木よりも少し高い場所に展望台を計画した。

### E6S7

この展示スペースは1枚壁の陰に隠れるため、日の光に弱い作品を展示するのに適している。

### E5S7

傾斜地に浮かぶようにある展示スペース。床に台座を置くことでインスタレーションなども展示することが出来る。眺めはそれほど良くはない。

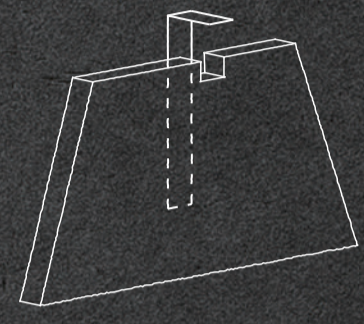
## DIAGRAM.1

山の形状が逆さにした船に似ている事から“船岡山”と呼ばれるようになったこの山に舵を付け、向かうべき方向を自在に定められるようにした。

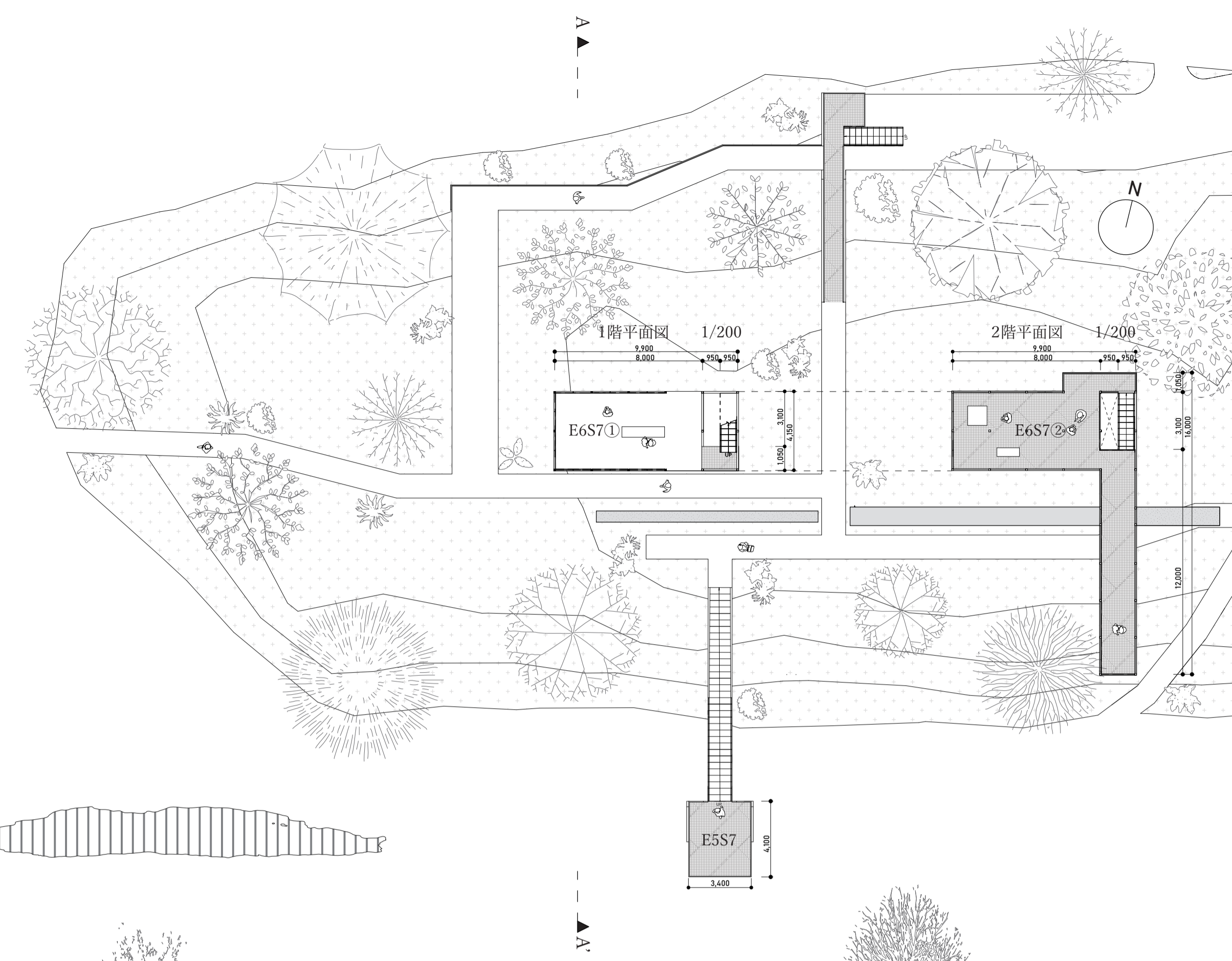
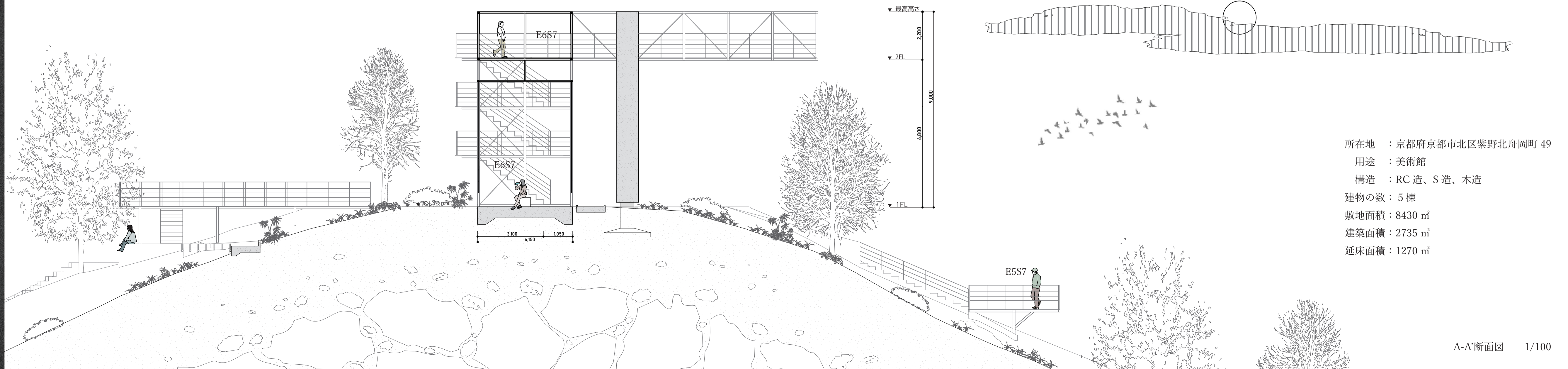
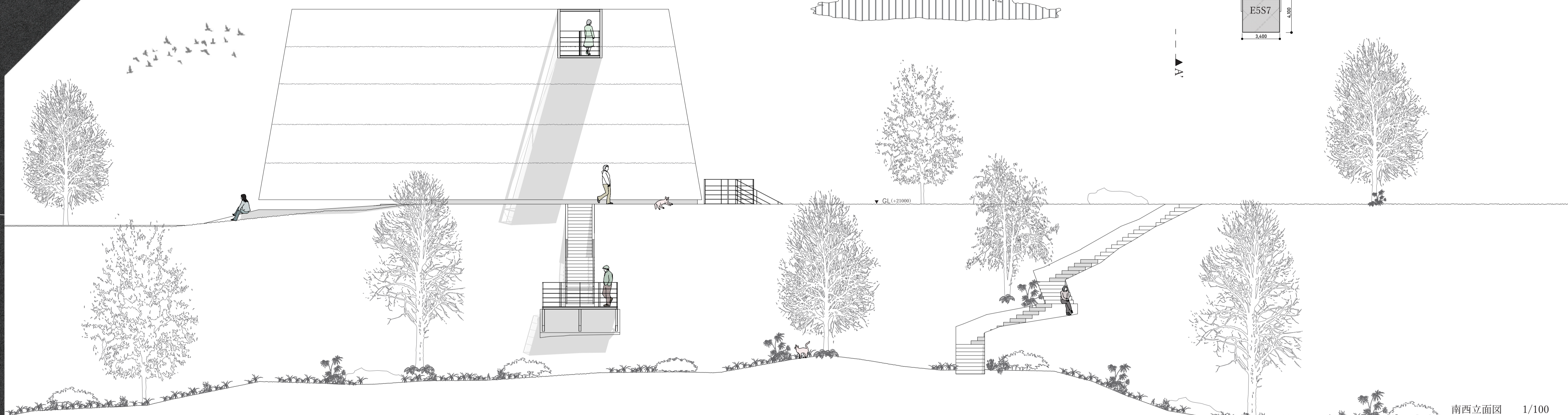
区画番号	1	2	3	4	5	6	7	8	9
区画形状	森	樹	建み	平	植	植	高	-	-
区画形状	正方形	三角形	円形	道	六	長方形	井	平面	多角形



### DIAGRAM.1



舵を固定するための金具をイメージした。



所在地：京都府京都市北区紫野北舟岡町49  
用途：美術館  
構造：RC造、S造、木造  
建物の数：5棟  
敷地面積：8430㎡  
建築面積：2735㎡  
延床面積：1270㎡